

佳作

## 英語を学んで文化を学ぶ

静岡県 御殿場南高等学校一年 鈴木 理子

それまで一ミリも興味がなかった英語を好きになったのは、私が小学生の時だった。母のいとこの友人のオーストラリア人と簡単な英語でゲームをする機会があったからだ。片言な英語でも、はずかしいなんて思うことなくジェスチャーなど、相手とのコミュニケーションを楽しんでいた。春休みには、ホームステイをさせてもらい、英語にふれる時間が多かった。朝起きたら英語、ご飯食べていても英語、寝るときも英語というとても幸せな時間だった。ホストファミリーは、私の片言英語を優しくフォローしてくれて、嬉しかった。一緒に海へ行ったり、バーベキューをしたりして、楽しい時間を過ごした。ホームステイ先の学校に行ったとき、歴史の授業を受けた。オーストラリアは、昔からの移民国家で、複数の文化がともに生かされた独自の文化になっていることや、日本との交流が盛んで、貿易関係であることからお互いに良い友好関係を保ち続けていることなどを教えてもらった。先住民であるアボリジニは四万年以上前から

らオーストラリアに住み、食料を探し求めながら移動生活をしてきた。主な文化には、アボリジナルアートや、管楽器ディジュリドゥを使用した音楽などがあり、今も受け継がれているものもある。しかし、十七世紀になりイギリスによる植民地化によってアボリジニの迫害、虐殺などがあり差別が続いた。又、彼らを白人の影響の多い所から外れに移住させるといふ人種差別、隔離的な政策をし、徹底的な人種差別である白豪主義により弾圧政策をした。アボリジニによる抵抗も無意味なものになるという残酷な時代があったという話もしてくれた。英語を楽しく学ぶことを目的にして来たのだが、その国の文化を知るといふのも礼儀なのだと感じた。学校で習った歴史とは違い、実際現地の人に聞くのは、とても貴重な経験だった。その国にはその国の文化があるし、色々な歴史がある。互いの文化を理解することが大事なのだと思った。

友達と下校している時、よく外国人から道を尋ねられる。ある人は、ブラジル人で英語圏ではない人だった。その人は母国語と、英語と日本語の三カ国語を勉強している。日本へは、文化を学ぶための旅行に来たらしかった。文化を学ぶためには実際に旅行をし、英語を通して、現地の人とコミュニケーションをとることが大切だと思っているから、自分が分かる力を全て使って話をしてくれたのだと思う。現地の私たちも、自分たちの英語の力

を全て使って文化を伝えようと努力する。この二つの異なる国の人の交流が生まれることによって、相互理解が深まると思う。

文化を理解し合うことによって、利点も生まれると思う。オーストラリアの白豪主義のような差別は、相手国の文化を理解していなかったために起こる。しかし、互いの文化を理解し、尊重することで、差別などの悲しい出来事はなくなると思う。自分の国だけの価値観だけでなく、国の数や、民族の数だけそれぞれの価値観があること、文化があることを理解していれば、他国に対する考え方は変わり、関係も変わっていくと思う。

文化を理解し合うまでの中で、欠点も生まれると思う。それは、自分が相手国や外人に対して持っている先入観をどう取り除くかという点だ。私は、外国人を見ると、英語が分からなくても何かコミュニケーションをとりたいと思うのだが、世の中には外国人に話しかけられると自分が英語が話せない、外国人は少し怖いなどといった先入観でコミュニケーションを拒否したり、目をそらしてなかったことにしたりする人がいる。外国人は、自分が文化や日本語を学ぼうと話しかけているのに、教える側の先入観によってそれをなかったことにしてしまう。先入観を取り除くことで、異文化について知ることができ、自分の国の文化を伝えることで、新たな発見にもつながると思う。

英語は、他国の人とコミュニケーションをするための手段だけでなく、互いの国の文化を学ぶことができ、自分の視界を広げることのできるものだと感じる。ホームステイで学んだことを踏まえ、これからも英語、異文化学習に力を入れていこうと思う。